

2023年6月27日

西日本鉄道株式会社
福岡国際空港株式会社

福岡空港における大型自動運転バスの実証実験 第2弾 ～「雨天時の自動走行」「FIAC スタッフの輸送」による検証を実施～

- 西日本鉄道株式会社(本社:福岡市博多区、代表:林田 浩一、以下「西鉄」)、福岡国際空港株式会社(本社:福岡市博多区、代表:永竿 哲哉、以下「FIAC」)では、2023年6月27日(火)より、福岡空港における大型自動運転バスを用いた自動運転の実証実験 第2弾を開始いたします。
- 2022年春に行った実証実験 第1弾では、初めて実車両を活用し、安定した車両挙動が確認できました。今回新たに、前回未検証であった雨天時における自動走行を行うほか、FIACスタッフが実際に乗車し、乗り心地や安全に関するアンケート調査を行います。輸送サービスとしての課題点を抽出し、検証を進め、自動運転の実装へ繋げてまいります。
- 西鉄では本取り組みを通じ、多様なフィールドでの実証を重ね、自動運転バス運行に関する知見を蓄積しながら将来的な社会実装を目指すほか、自動運転のみならずモビリティに関する先端技術を積極的に採用し、サステナブルな公共交通を実現してまいります。

《実証実験に使用する自動運転バス》



■ 自動運転実証実験の概要

【実証期間】 2023年6月27日(火)～8月10日(木) ※左記日程のうち27日間(予備日含む)

【実証区間】 福岡空港国内線・国際線連絡バス道路 約1.4km



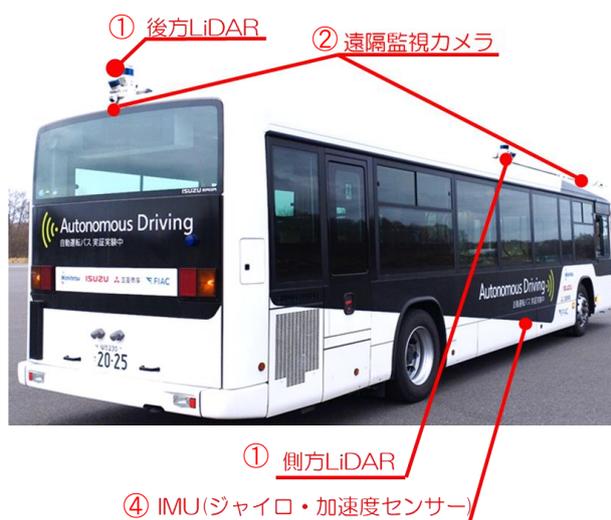
【車両】 導入台数:大型自動運転バス1台
車名:いすゞ自動車「エルガ」
乗車定員:79人(座席29席)

【運行便数】 1日8往復(運行時間帯:10時～21時、日により運行時刻は異なります)
※一般のお客さまはご乗車いただけません。
※当日の天候や車両のメンテナンス状況などにより運行予定が変更となる場合がございます。

【検証内容】
・大型自動運転バスの技術評価
・大型自動運転バスの安全性・利便性に関する知見の獲得
・大型自動運転バスの運用・サービスにおける課題点の確認

【車載機器】

- ①LiDAR
・検知したスキャンデータを3Dマップと照合した自車位置の推定
・自車周辺の構造物や車両などの検知
- ②望遠・広角カメラ
・信号の灯火色を検知(今回は不使用)
・周辺環境検知の補助
- ③ミリ波レーダー
・側方の車両の検知
- ④ジャイロセンサー
・自車位置測定の補正
- ⑤GNSSアンテナ
・自車位置推定の補正
- ⑥雨滴センサー
・雨量を判定し、自動運行可否を判断



- 【協業企業】 西日本鉄道株式会社
※順不同 福岡国際空港株式会社
いすゞ自動車株式会社(自動運転システム搭載バスの提供)
三菱商事株式会社(全体統括)

【参考】 前回の実証実験における検証結果

【実証期間】 2022年3月8日(火)～4月8日(金)(左記日程うち19日間実証。計300便運行。)

- 【実証結果】
- ・車両はスムーズに動き軌道のぶれもほとんどない。
 - ・アクセル・ブレーキもなめらか。
 - ・オーバーライド(自動運転から手動運転への切り替え)が複数回発生。
 - ・車両重量の増大(重りまたは立席)や周囲の明るさ変化に伴う車両挙動変化は見られない。

【実証実験の様子】



【参考】 西鉄グループにおける過去の実証実験について

- ・2020年 2月 北九州エリアにおいて小型自動運転バス実証実験実施
- ・2020年 10月 同エリアにおいて中型自動運転バスの実証実験実施
- ・2022年 3月 福岡空港において大型自動運転バス実証実験(第1弾)実施

本件に関するお問い合わせは、西鉄お客さまセンター(TEL:0570-00-1010)まで